

望ましい学習習慣の確立に向けて

5月下旬となり、生徒は新しい環境にもなじみ、学校生活の様々な場面で力を発揮していることと思います。教室掲示にも生徒の目標が掲げられていると思いますが、その目標達成に向けて生徒が自分に合った家庭学習習慣を確立できるように指導し、学習内容の確実な定着の基盤づくりを推進することが、生徒の目標実現のために重要です。



本県生徒の家庭学習状況

同一集団における授業外で1時間以上学習する児童生徒の割合の変化

※ 平成26年度及び平成29年度全国学力・学習状況調査結果から

	H26(小6)		H29(中3)
本県	65.0%	→	59.2%
全国	62.0%		69.6%

中学校に進学後も、生徒が家庭学習時間を確保できるようにするための指導が必要だね。



家庭学習時間増加に向けた取組について

授業とつながる家庭学習

本時の終末

家庭学習

次時の導入

- ・授業と家庭学習のつながりや取り組み方のポイントを示す。
- ・具体的に取り組むことを記入させる。
- ・内容と量を考える。

宿題

+

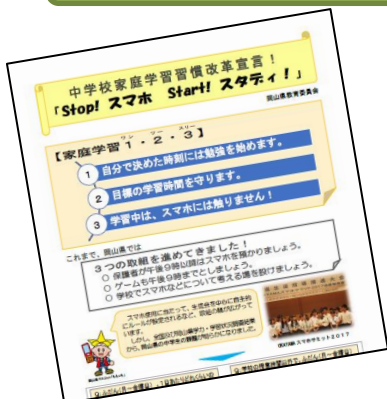
自主学習

- 授業の復習
- 基礎・基本の定着
- 毎日取り組む習慣
- 学期や学年を越えた復習

- 自ら学ぶ力の育成
- 興味のある内容
- 苦手分野の克服
- 時間をかけ質を高める内容

- ・家庭学習で課した内容の小テストを実施し、定着度を測る。
- ・既習事項の確認や本時の学習内容につながる内容を家庭学習から紹介する。

学習習慣を支える生活習慣の改善



各校における、『Stop! スマホ Start! スタディ!』の取組の進展状況はいかがでしょうか。

推進に当たっては、計画通りに実施できているかどうかの確認に止まらず、「なぜ」できたのか(できなかったのか)を生徒に考えさせ、生徒自身の時間管理や環境を整える力を高めることが重要です。勉強方法が分からずに困っている生徒には、モデルを示したり、一緒に計画を立てたりするなど、丁寧に指導しましょう。

また、保護者への呼びかけや協力依頼も大切です。

生徒に身に付けさせたい力は、自身の習慣を振り返り、最適化していく調整力です。先生方が御自身の経験を踏まえながら、思いを込めて趣旨を説明するなど、生徒のやる気に火を付ける工夫が求められています。